

第14回宇宙天気ユーザーズフォーラム

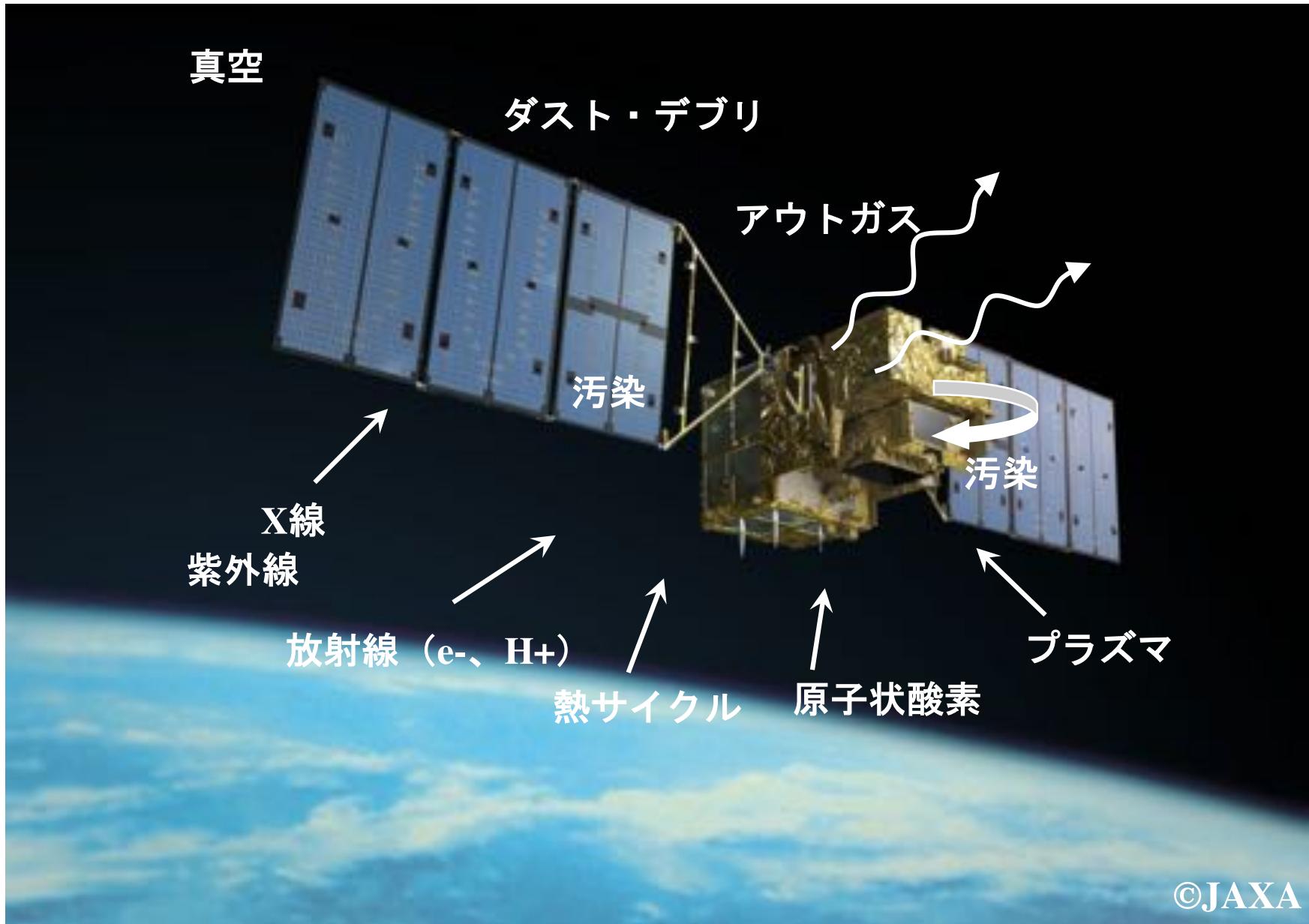
宇宙機の帶電放電

九州工業大学 宇宙システム工学研究系
宇宙環境技術ラボラトリー

豊田和弘

参考書：Daniel Hastings and Henry Garrett,
“Spacecraft-Environment Interactions”

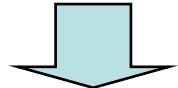
宇宙



放電事故

1997年 静止軌道衛星Tempo-2

発電電力の15%が低下



世界中の研究機関が調査を開始

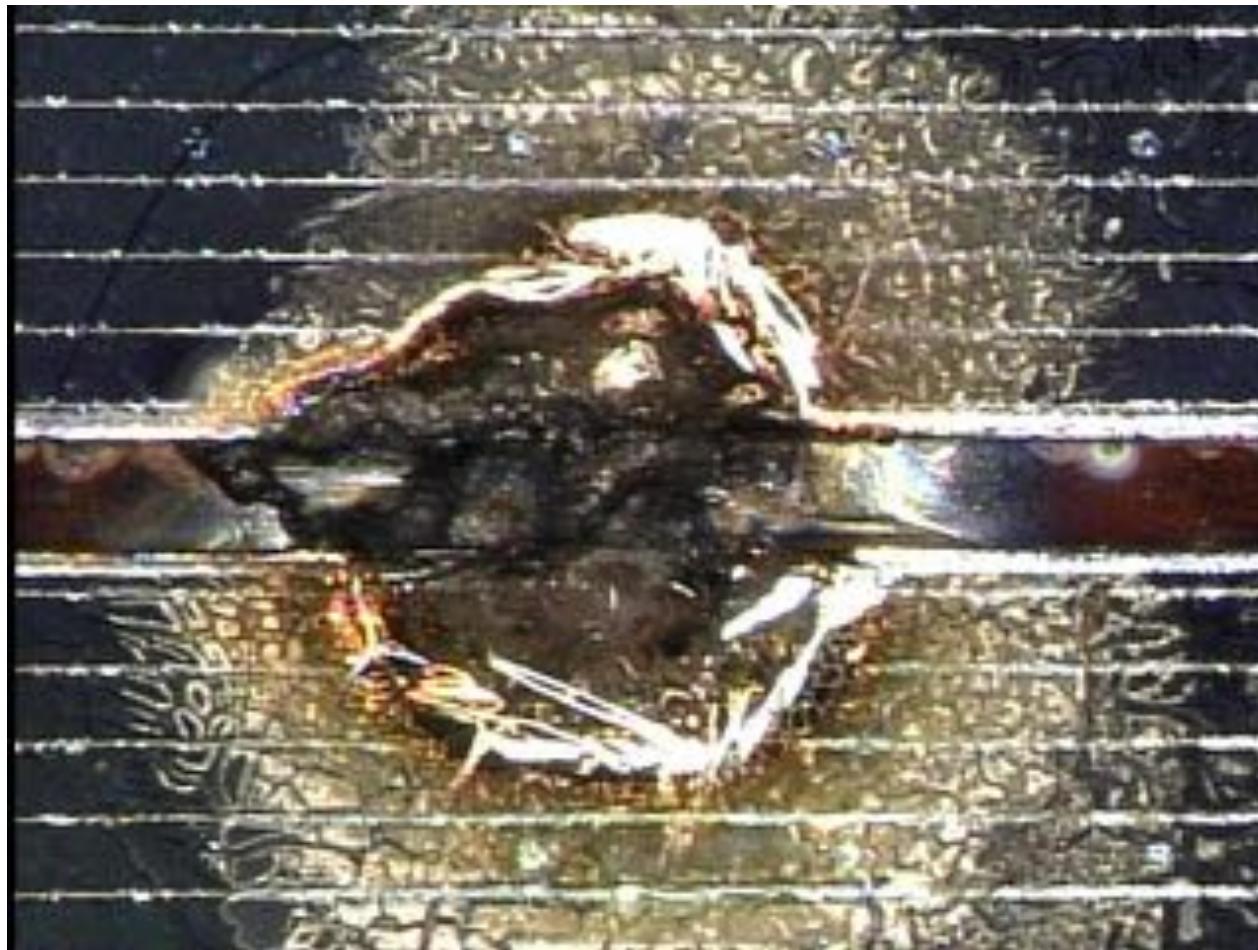
Tempo-2



太陽電池アレイと宇宙プラズマとの
相互作用により放電が発生

アレイ回路の短絡 → 電力損失

持続放電



放電事故

- ・みどり2号
極軌道衛星

2003年10月
発電電力が6kWから1kW
に低下



©JAXA

熱制御材の帯電



ケーブルと放電

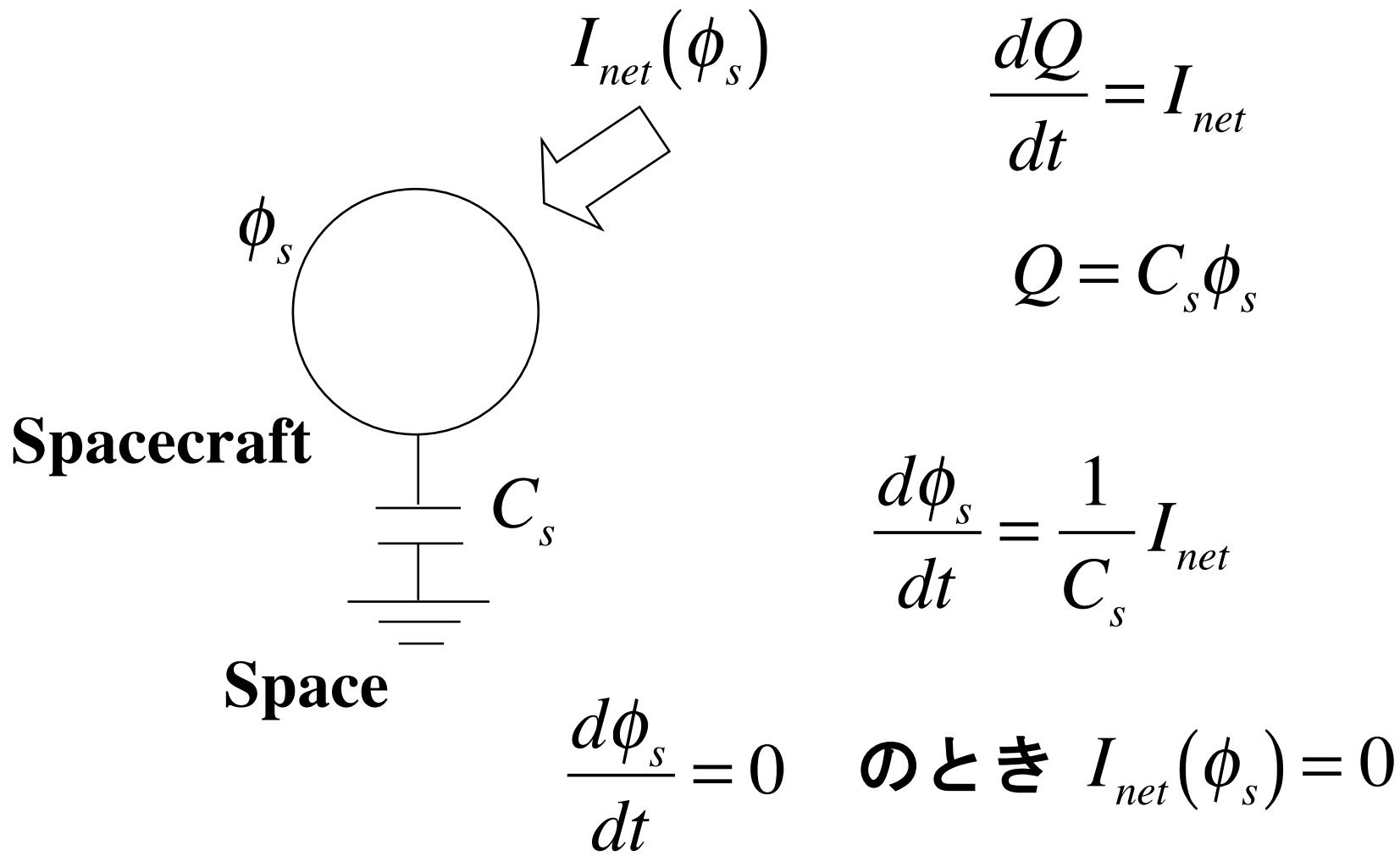
帯電

- 表面帯電
 - 導体や絶縁体表面に電荷がたまる
- 内部帯電
 - 絶縁体内部に電荷がたまる
 - 宇宙機外壁などを通過し電荷がたまる

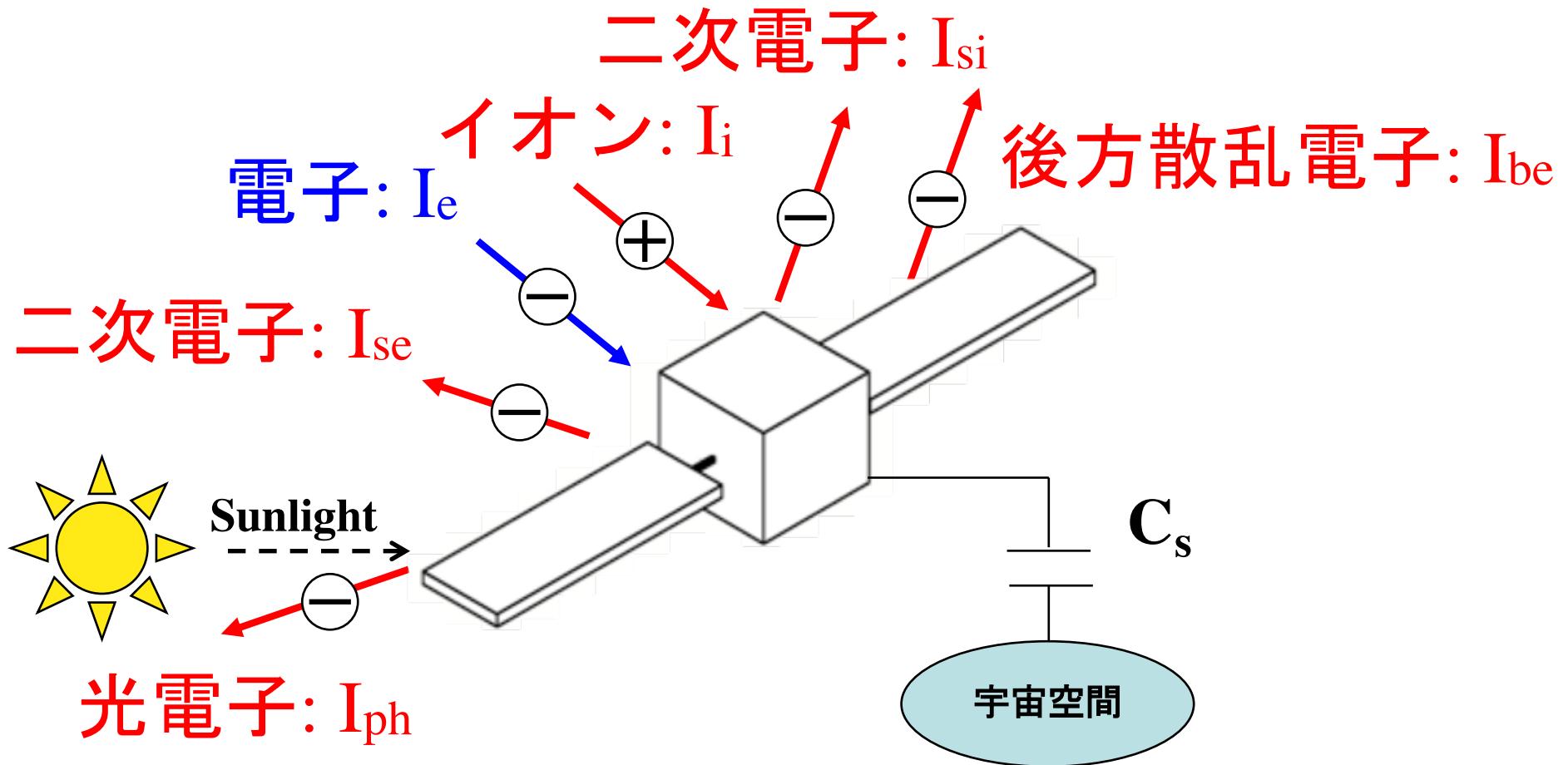
帯電放電

- 宇宙では接地できない
 - 宇宙機は電気的に浮いている
 - 宇宙プラズマで宇宙機が帯電
- 絶縁体ももちろん帯電
 - 宇宙機構体(導体)と絶縁体表面で電位差発生
 - 放電する

宇宙機の電位と電流



宇宙機の流入出電流



$$I_{\text{net}} = I_i + I_{\text{se}} + I_{\text{si}} + I_{\text{be}} + I_{\text{ph}} - I_e$$

人工衛星の軌道

- 低地球軌道 LEO (Low Earth Orbit)
 - 高度300 km～1500 km
 - 周期 約90分、速度 8 km/s
- 静止軌道 GEO (Geosynchronous Orbit)
 - 高度36000 km 国際宇宙ステーション(ISS)
 - 周期 1日



GEO プラズマ環境

数keVから数十keVの荷電粒子

			Electron	Ion
Nominal	n_1	10^6 m^{-3}	0.78 ± 0.7	0.19 ± 0.16
	T_1	keV	0.55 ± 0.32	0.8 ± 1.0
	n_2	10^6 m^{-3}	0.31 ± 0.37	0.39 ± 0.26
	T_2	keV	8.68 ± 4.0	15.8 ± 5.0
Worst	n_1	10^6 m^{-3}	1.00	1.10
	T_1	keV	0.6	0.4
	n_2	10^6 m^{-3}	1.40	1.70
	T_2	keV	25.1	24.7

宇宙機電位 GEO

$$\frac{d\phi_s}{dt} = \frac{1}{C_s} I_{net} = \frac{1}{C_s} (I_i - I_e + I_{se} + I_{be} + I_{ph})$$

$$j_{ph} > j_e > j_i$$

$$10^{-5} \quad 10^{-7} \sim 10^{-6} \quad 10^{-8} \sim 10^{-7} \quad \text{A/m}^2$$

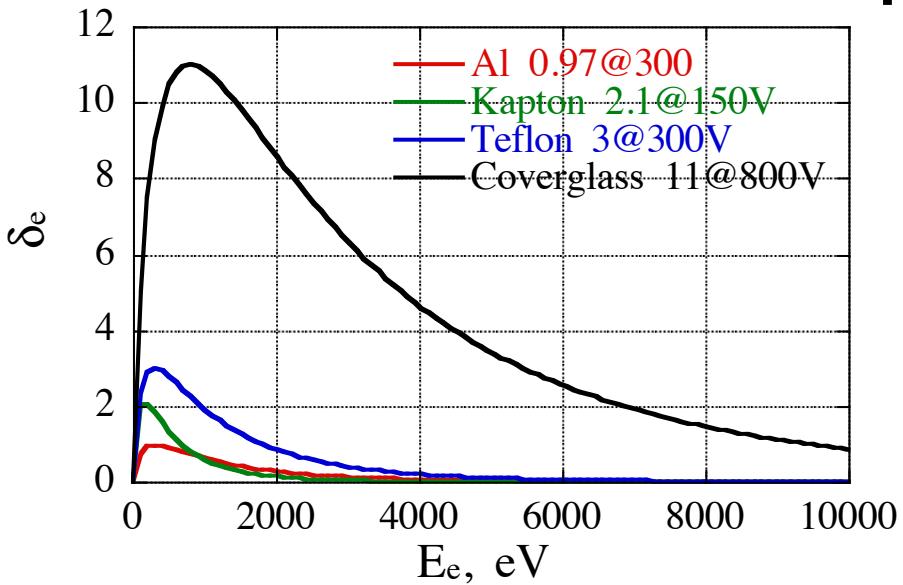
日照あり I_{ph} 大 $I_{net} > 0 \Rightarrow \phi_s > 0$

日照なし I_e 大 $I_{net} < 0 \Rightarrow \phi_s < 0$

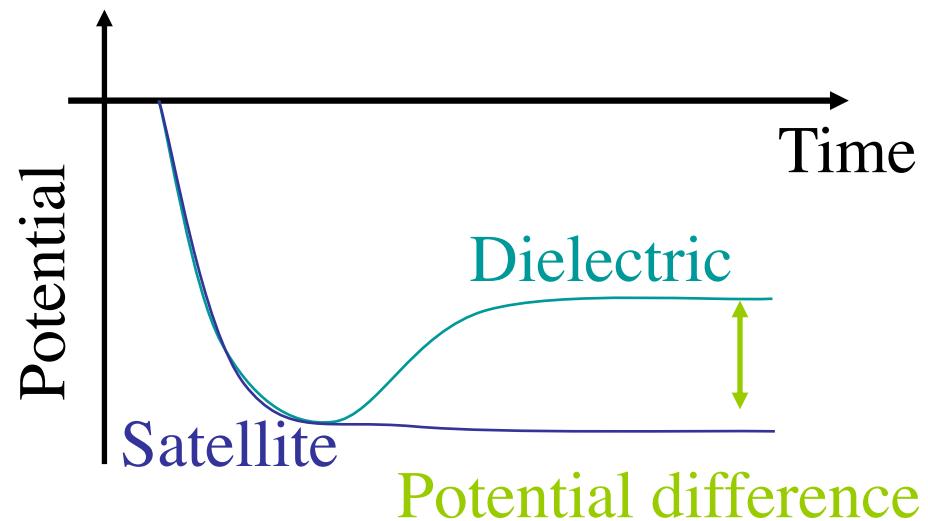
絶縁体表面の電位 GEO

$$\frac{d(\phi_d - \phi_s)}{dt} = \frac{1}{C_d} (j_i - j_e + j_{se} + j_{be}) - \frac{\sigma_d}{\epsilon_d} (\phi_d - \phi_s)$$

日陰 $j_{ph} = 0$ $\phi_s < 0$



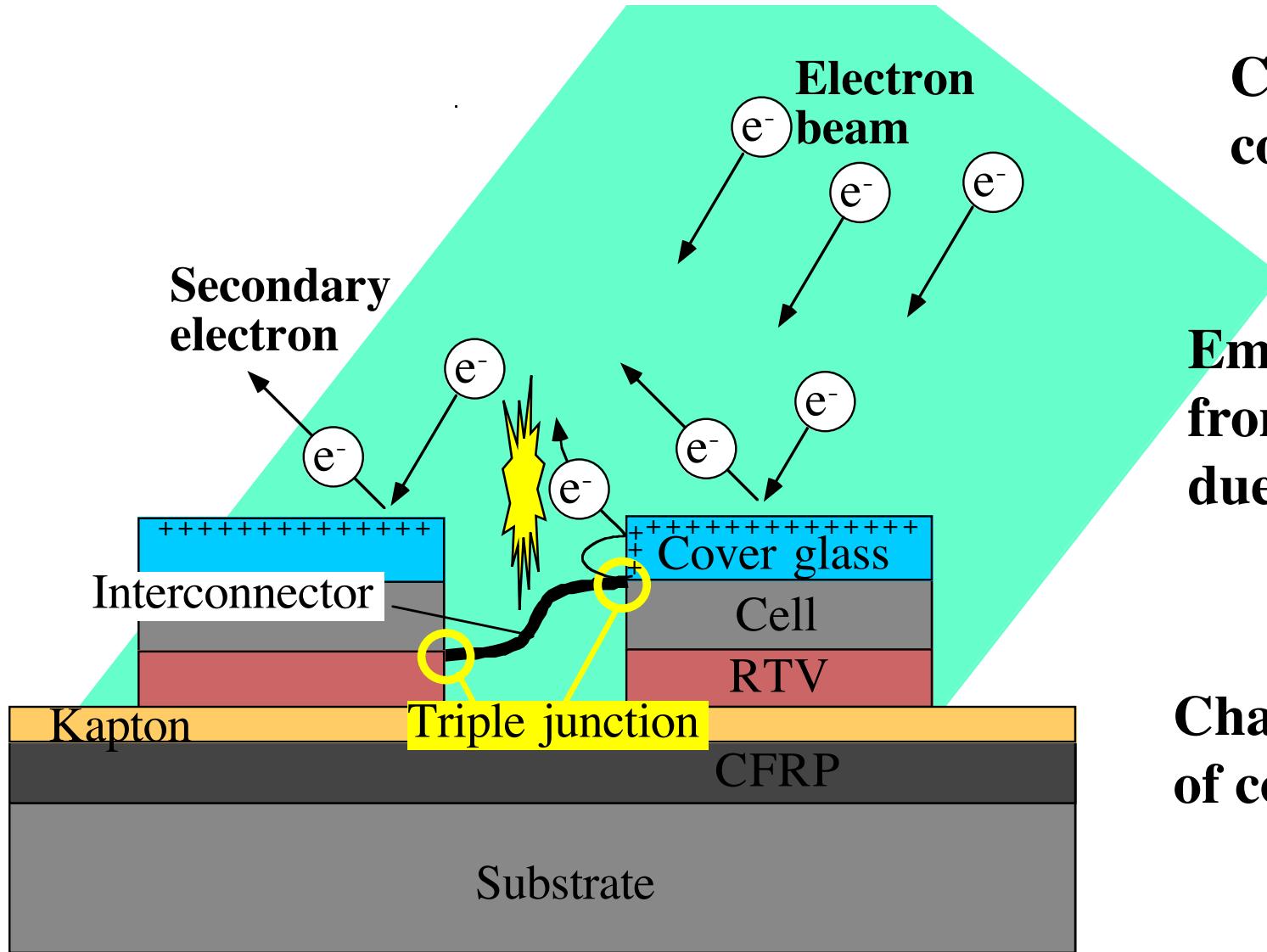
$j_{se} > j_e$ の時 $\frac{d(\phi_d - \phi_s)}{dt} > 0$



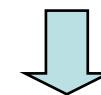
逆電位勾配

Inverted potential gradient

Mechanism of arcing



Charging of
coverglass surface



Emission of electron
from triple junction
due to EFEE

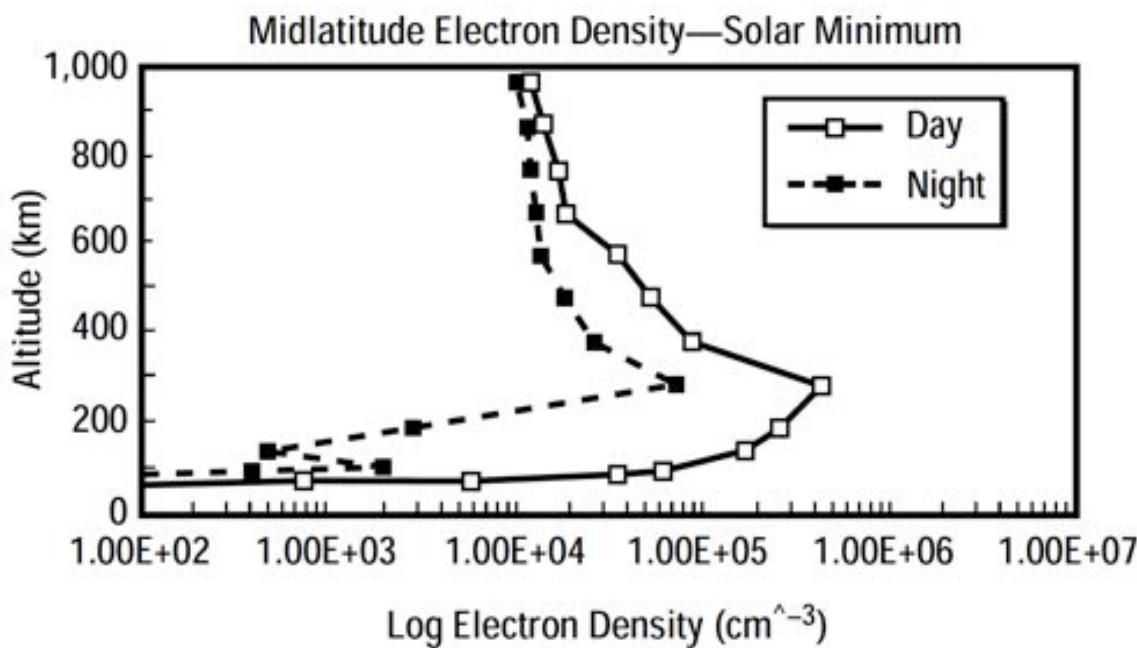
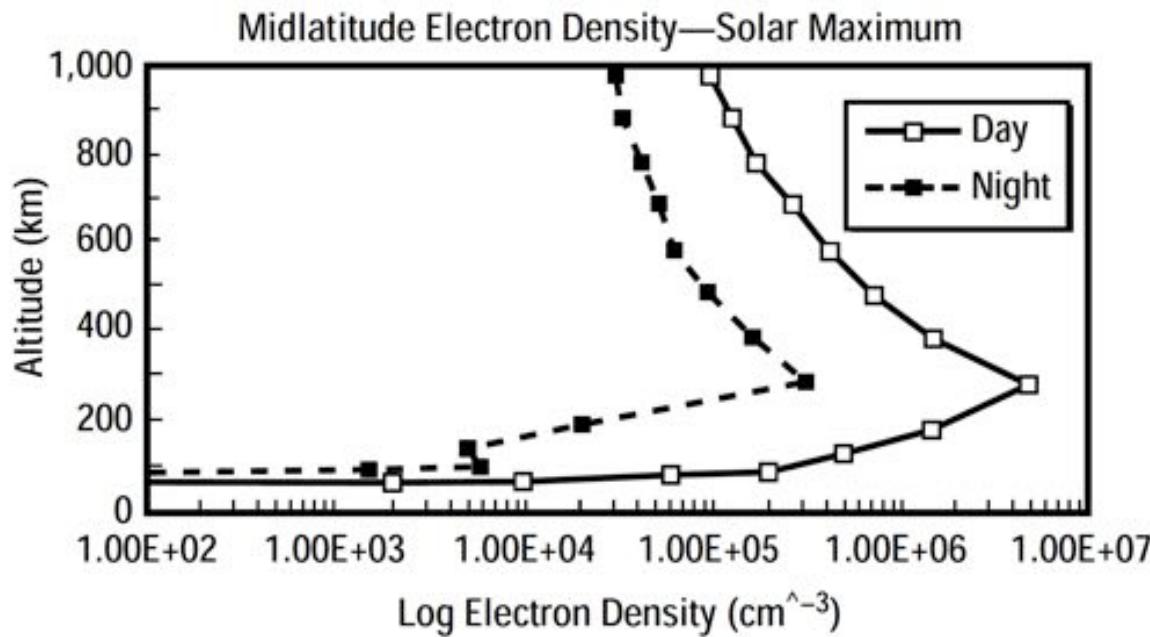


Charging of side edge
of coverglass



Arc

LEOプラズマ環境



プラズマ密度

$10^{10} \sim 10^{12} \text{ m}^{-3}$

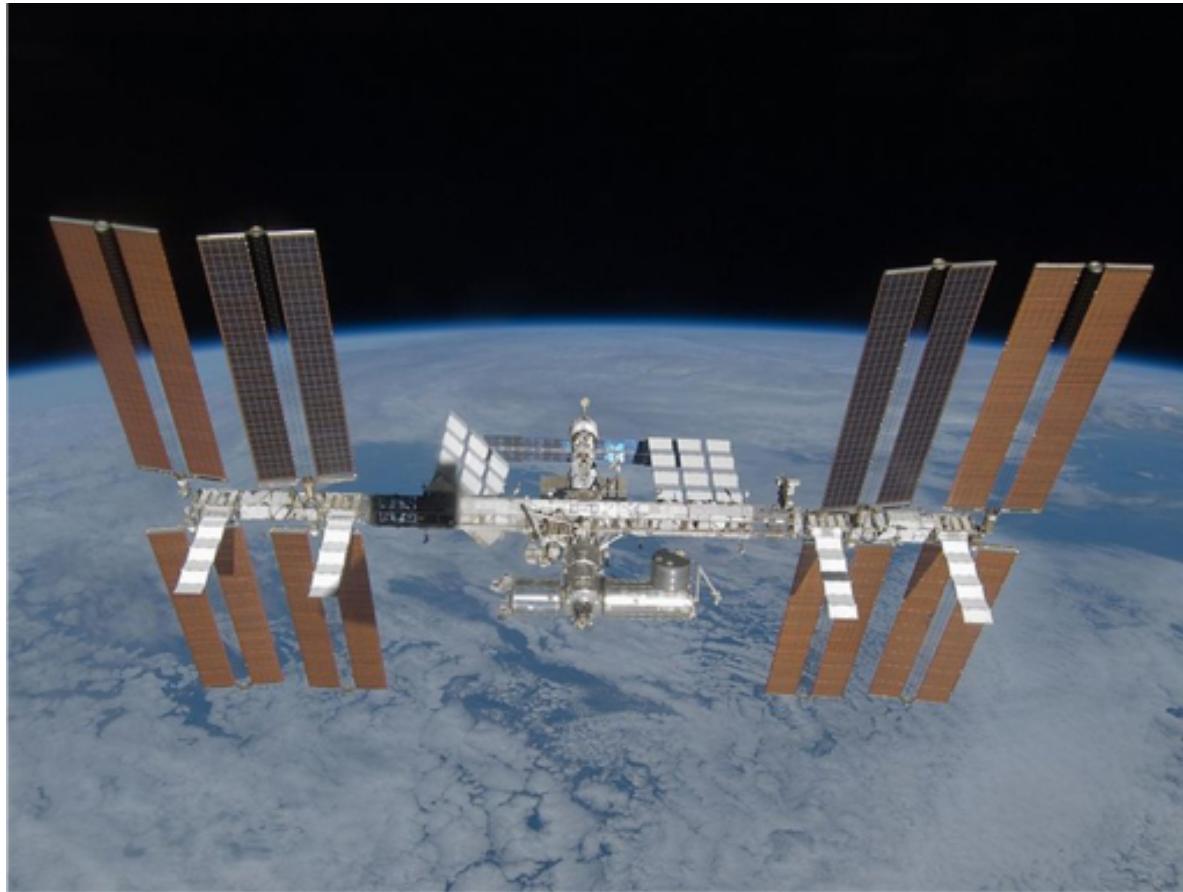
温度

0.2 eV

熱速度

電子 10^5 m/s
イオン 10^3 m/s

宇宙ステーション



国際宇宙ステーション (ISS)

15カ国参加
高度 400km

日本実験モジュール
「きぼう(JEM)」

宇宙機の電位 LEO

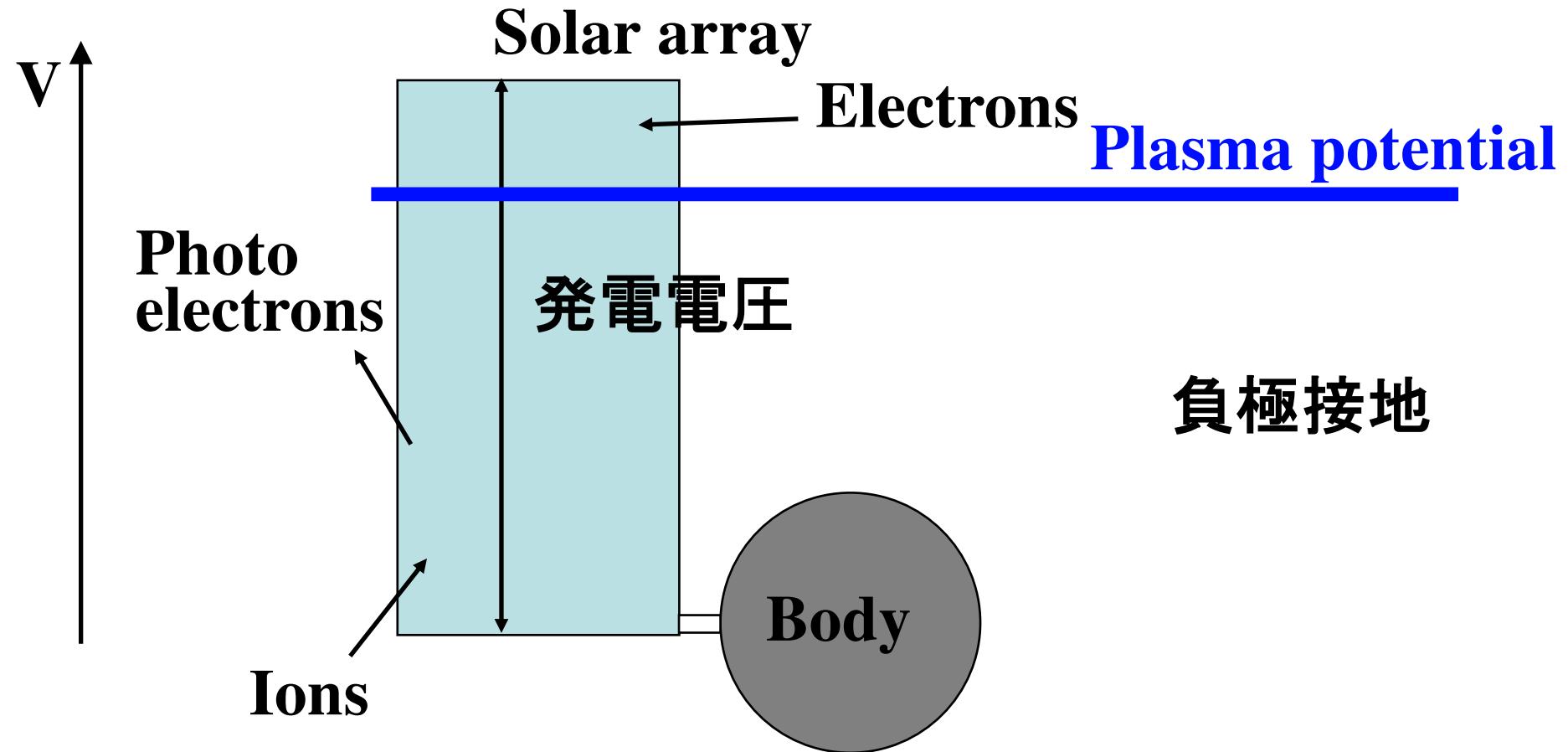
プラズマの温度程度負に帯電

$$j_i \ll j_e$$

$$10 \sim 100 \mu\text{A/m}^2$$

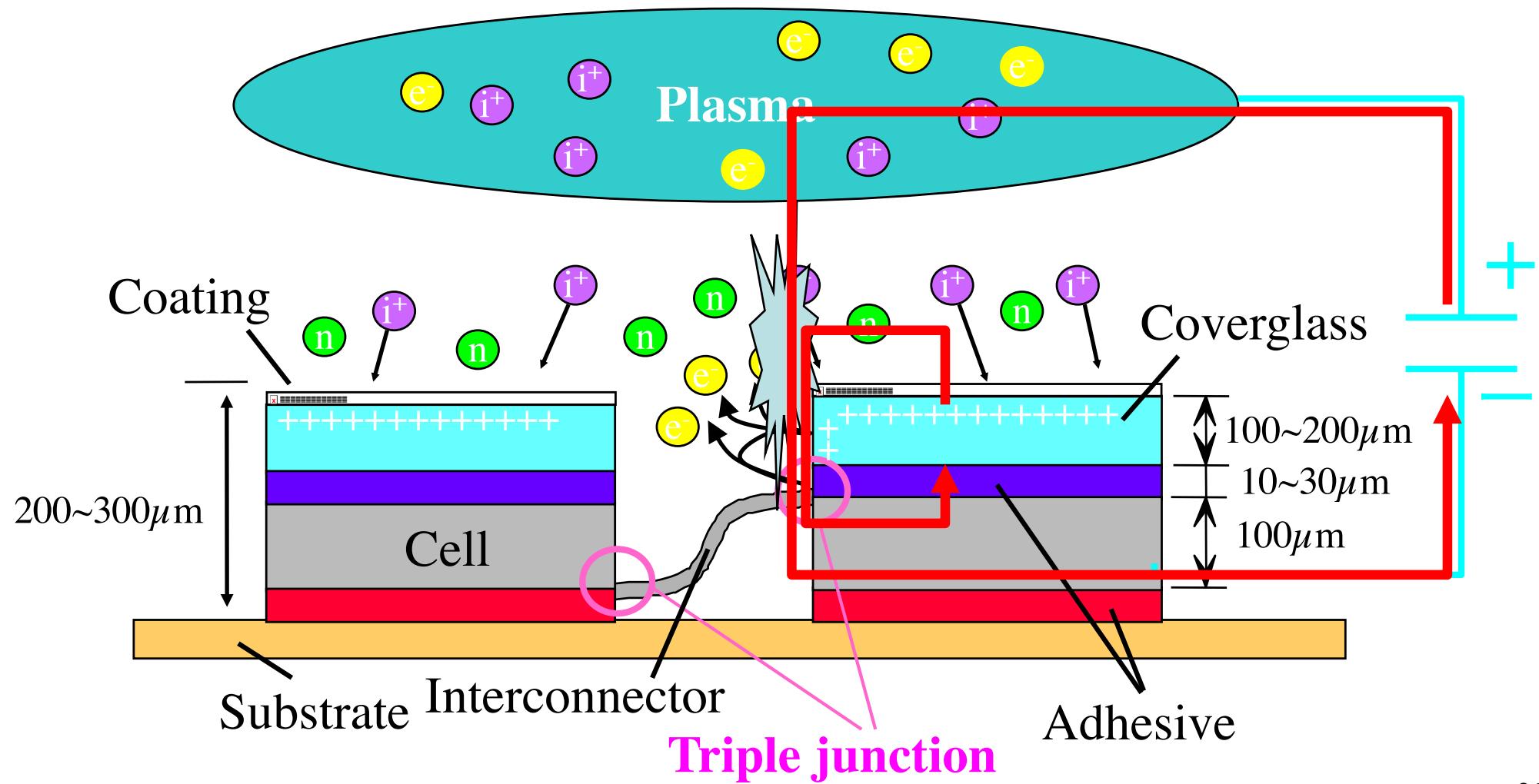
$$1 \sim 10 \text{mA/m}^2$$

しかし発電していれば...



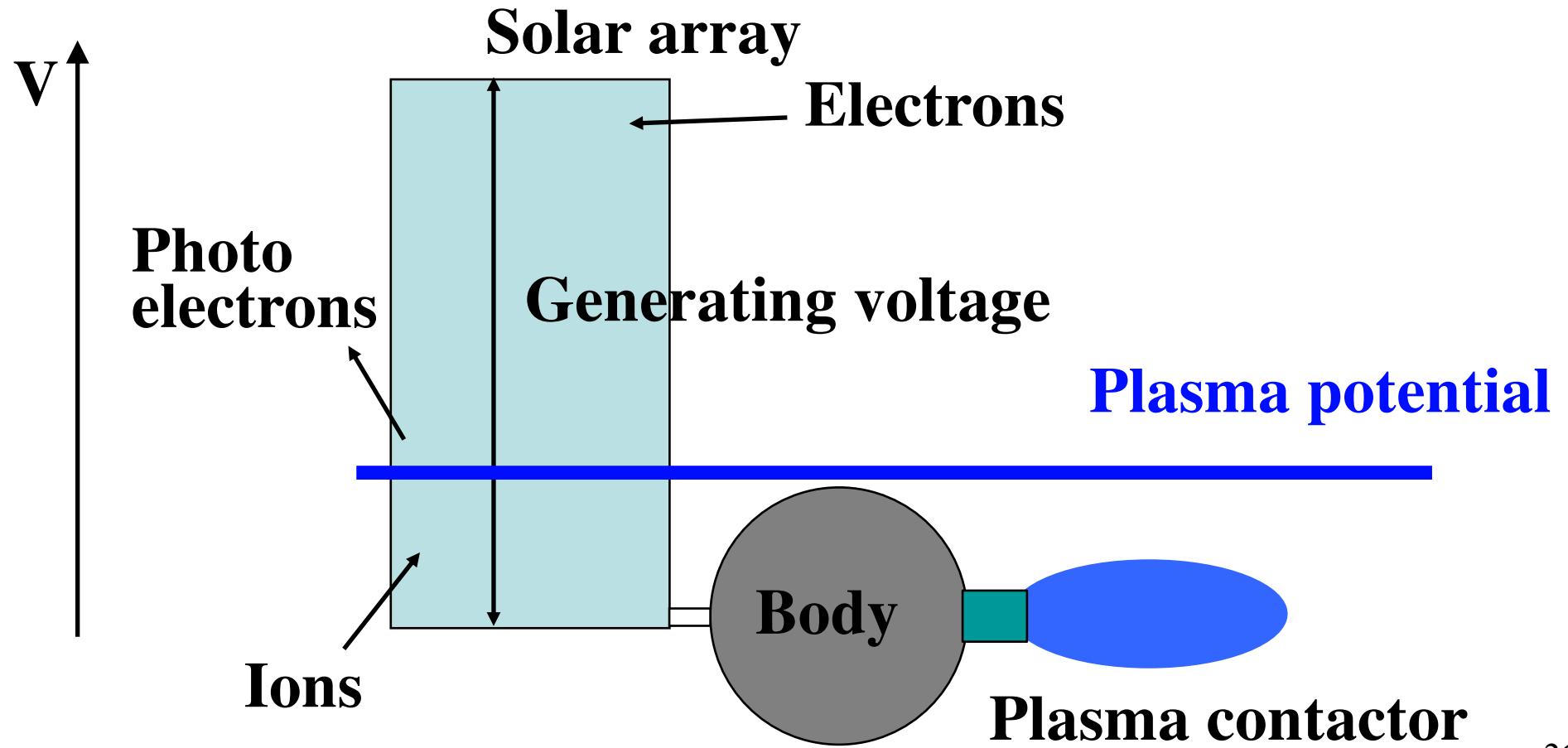
太陽電池アレイの負極を衛星グランドに接続

一次アーク

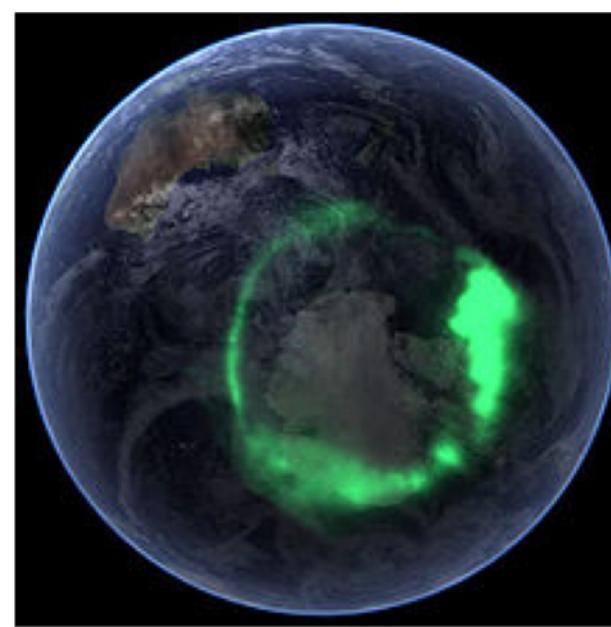
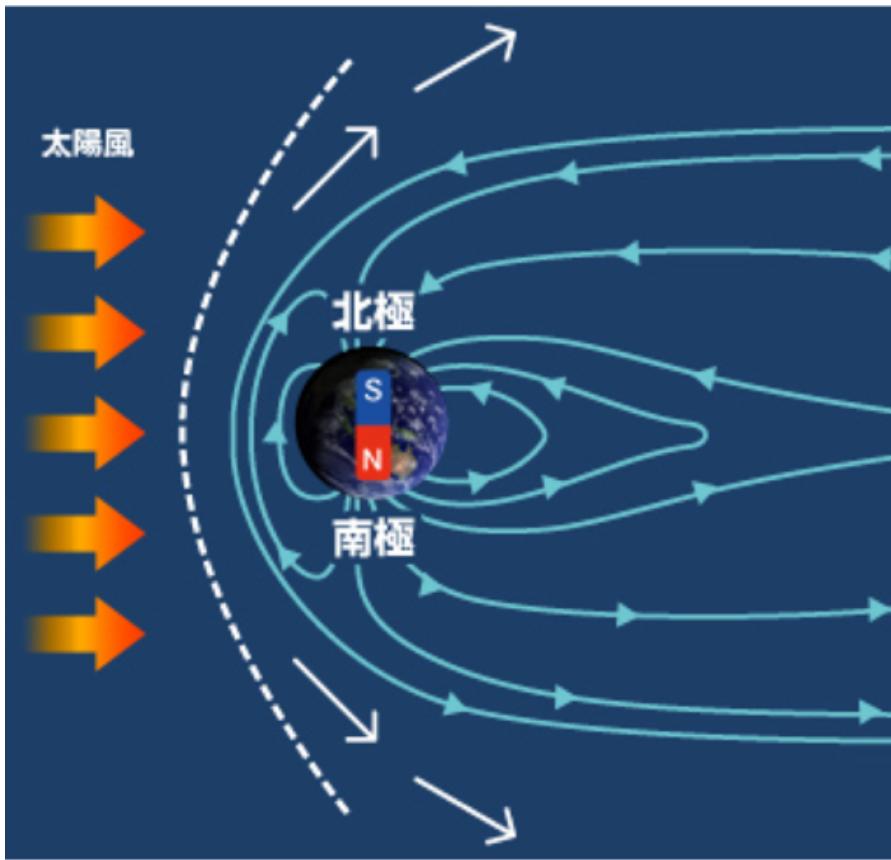


Spacecraft potential in LEO

With plasma contactor



極



地球は合成写真

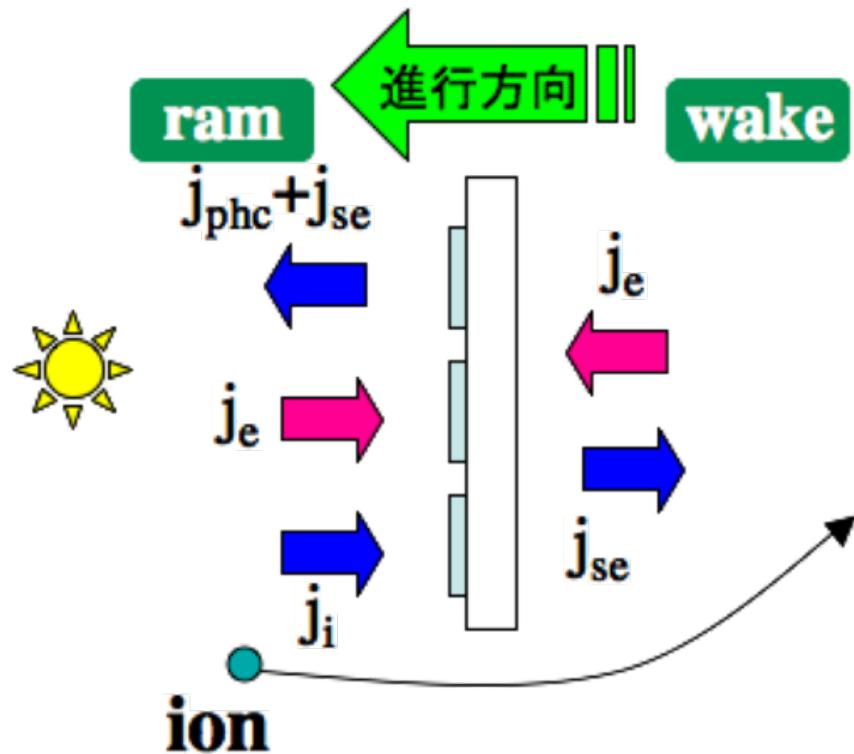


© Phil Hoffman

宇宙機の帯電 PEO

オーロラ帯

LEO環境 + GEO環境



LEOのプラズマだけでなく
10 keV以上の電子も来る

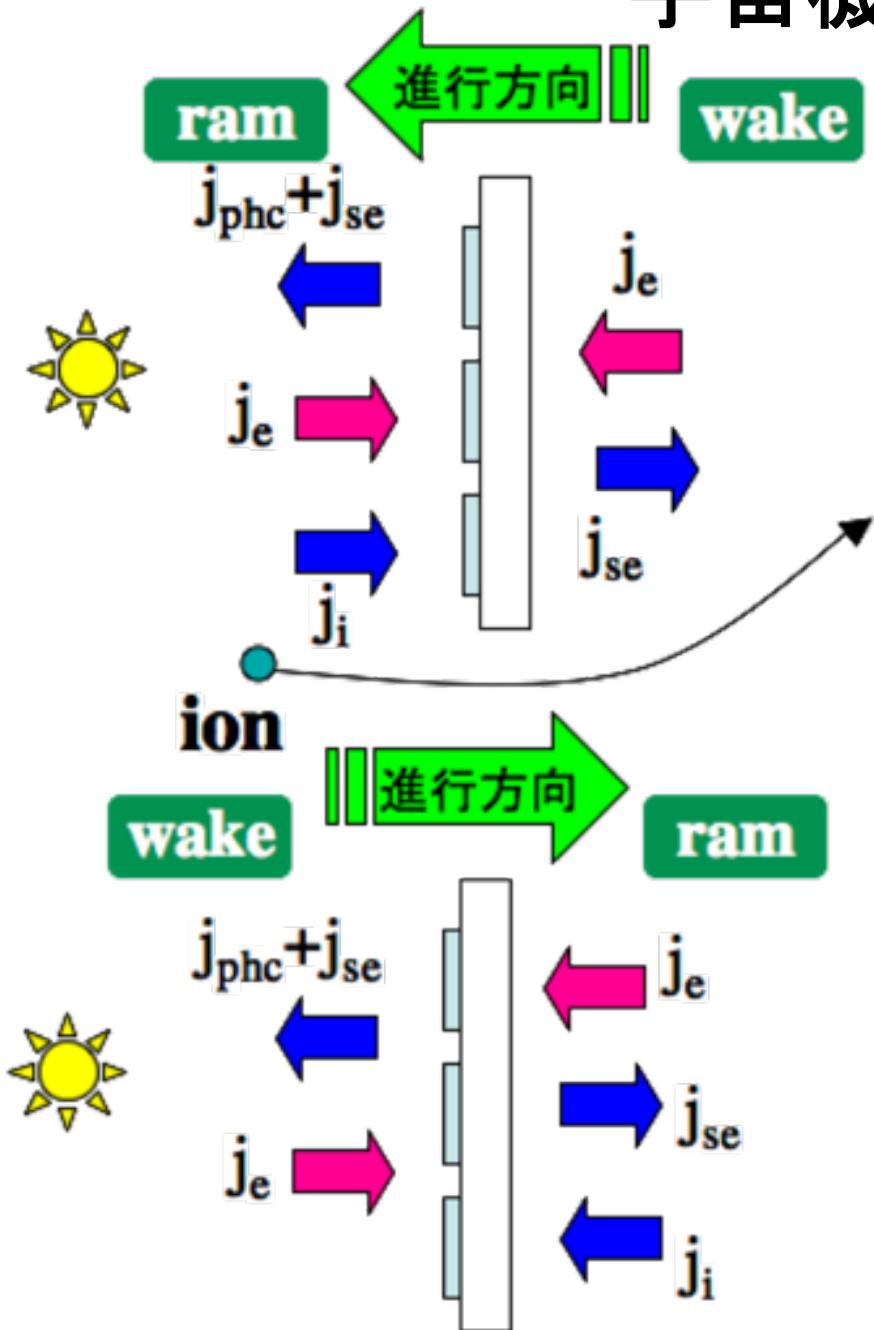
Wakeにはイオンは回
り込めない
衛星軌道速度 > イオン熱速度

$\phi_s \approx 0$ で $\phi_d < 0$ になる場合がある

順電位勾配

normal potential gradient

宇宙機の帶電 PEO



他にも帶電の可能性が...

ram 低エネルギー plasma

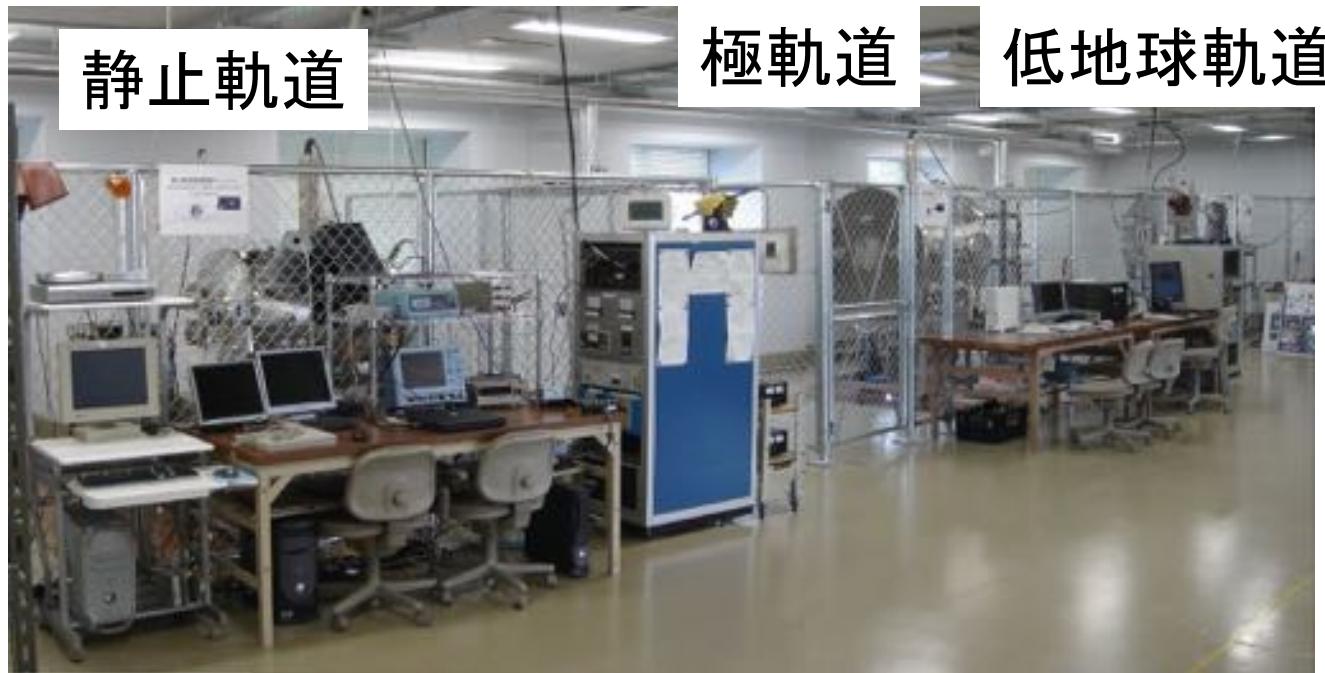
$$\phi_s < 0 \quad \phi_d - \phi_s > 0$$

wake 高エネルギー plasma

$$\phi_s < 0 \quad \phi_d - \phi_s > 0$$

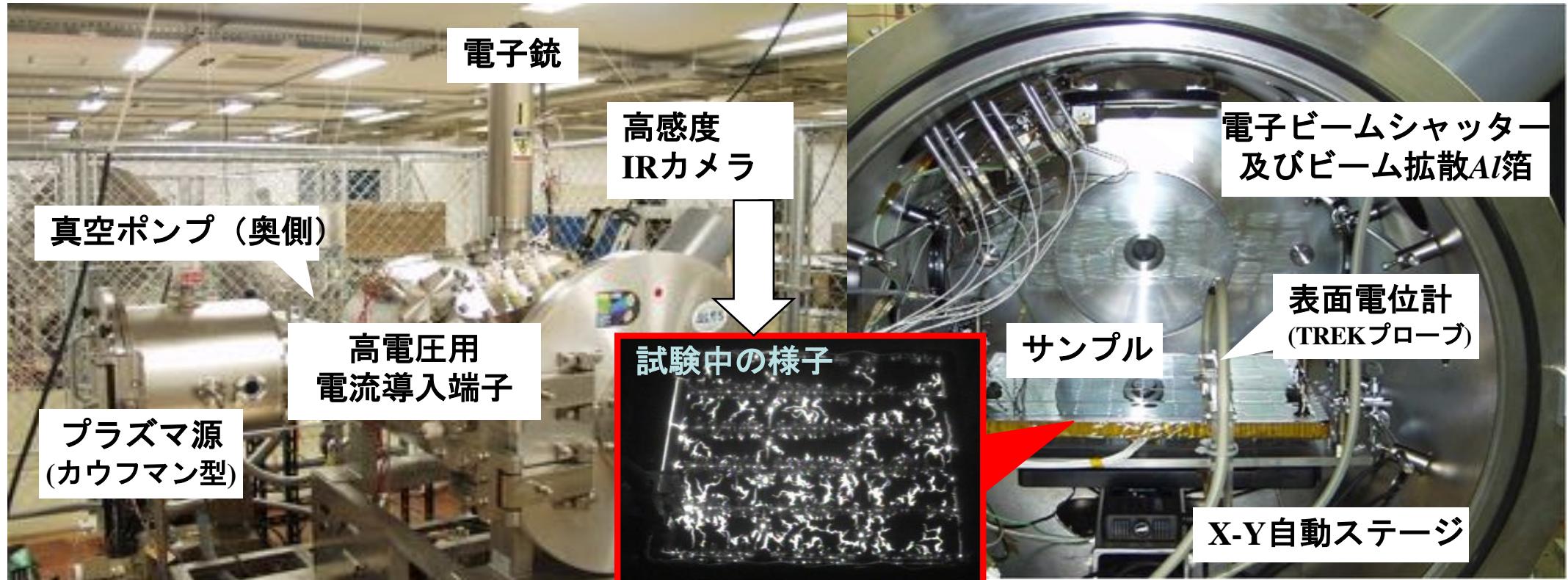
持続放電対策

- 打ち上げ前に地上試験
- 衛星の耐放電性能試験
- 地上帶電放電試験法の開発



九州工業大学 宇宙環境ラボラトリー

静止軌道試験チャンバ（電子ビーム環境）



チャンバ諸元

寸法	直径0.6m×奥行0.9m
到達真空度	2×10^{-4} Pa
ターボ排気速度	400 l/s

電子銃	最大加速電圧	30keV
	最大ビーム電流	$300\mu\text{A}$
	ビーム直径	85mm(FWHM)
	ビーム拡散アルミ箔厚	$0.7\mu\text{m}$
	ビーム拡散ビーム直径	260mm(FWHM)

地上試験法の国際標準を策定

ISO-11221,

“Space systems -- Space solar panels -- Spacecraft charging induced electrostatic discharge test methods”

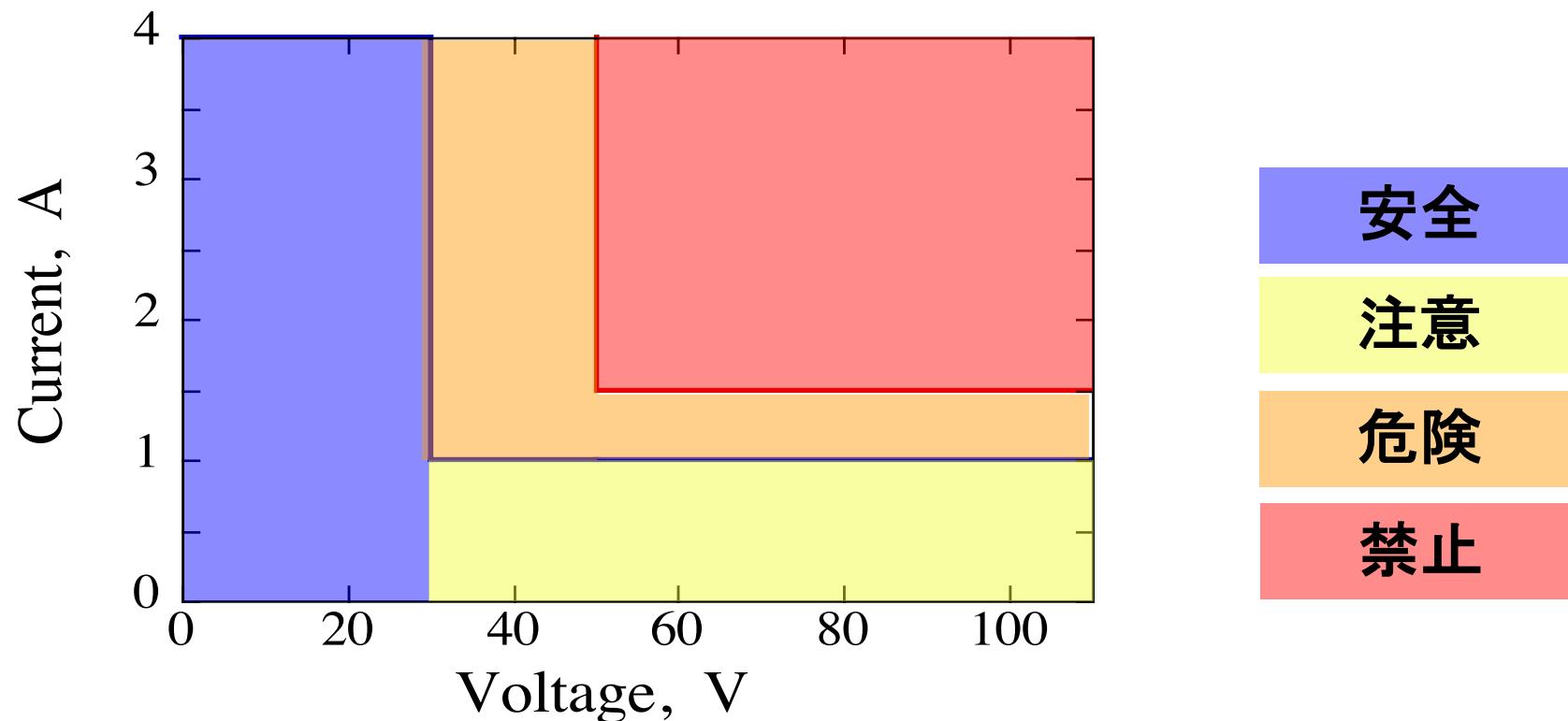
- ・持続放電が発生しないことを試験で検証
- ・放電閾値を計測
- ・放電による太陽電池の劣化を見積もる

JERG-2-211A 帯電・放電設計標準の策定

- 持続放電が発生することが分かっている条件では設計しない

取得データを取得

衛星帯電設計標準策定ワーキンググループへ反映



帯電最悪環境の国際標準を策定

ISO-19923,

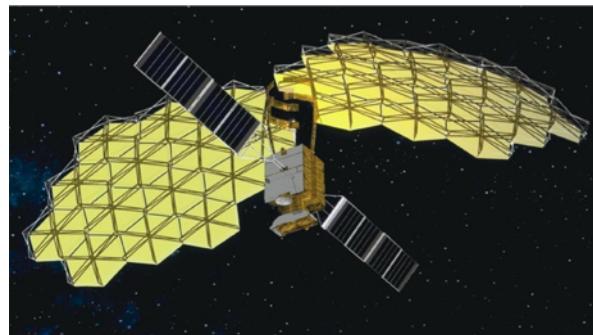
“Space environment (natural and artificial) —
Plasma environments for generation of worst case
electrical potential differences for spacecraft”

- 観測された静止軌道プラズマ環境から最悪帯電環境を提供

衛星地上帯電放電試験(1999年より)



はやぶさ(2003)



きく8号(2006)



きずな(2008)



ひまわり7号(2006)



みどり2(2003)
原因究明作業



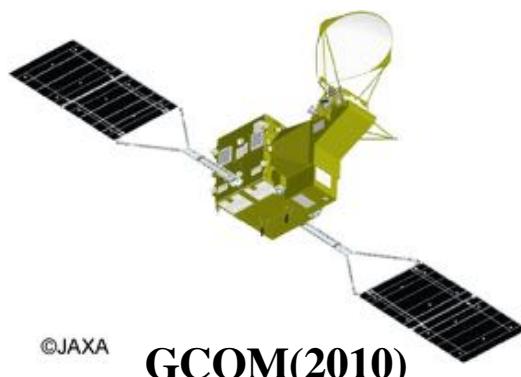
だいち(2006)



きらり(2005)



いぶき(2008)



©JAXA

GCOM(2010)



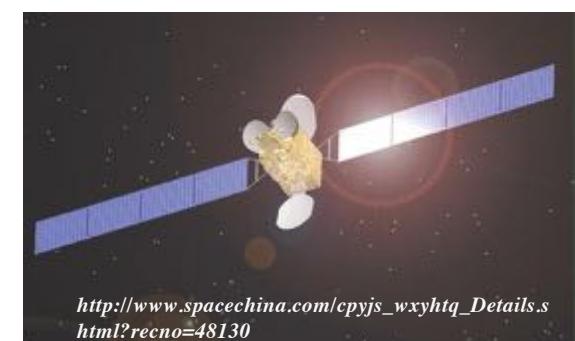
©ISRO

インド



<http://www.sstloral.com/html/satexp/telstar.htm>

アメリカ



http://www.spacechina.com/cpyjs_wxyhtq_Details.shtml?recno=48130

中国

放電事故を防ぐには

- 打ち上げ前に国際標準に沿った放電試験をする
- 宇宙機表面に絶縁体を貼付けない
- 金属は必ず宇宙機構体に接地する
- 宇宙環境を理解する